

県内経済は、生産活動で持ち直しの動きが続いているが、雇用情勢は引き続き厳しい状況にあり、個人消費も一部に明るい動きはみられるものの総じて低調に推移するなど、厳しい状況が続いている。

## 1. 平成22年1月の県内経済

消費動向をみると、大型小売店販売額（全店舗ベース）は、衣料品、飲食料品、身の回り品など軒並み低調に推移し、8ヵ月連続で前年を下回った。乗用車新車販売は、補助金や減税の効果から普通車および小型車が前年を上回り、合計では6ヵ月連続で前年を上回った。生産活動は、鉱工業生産指数（原指数）が17ヵ月ぶりに前年を上回るなど、着実に持ち直し基調で推移している。投資動向をみると、公共工事前払保証取扱は、請負金額が2ヵ月ぶりに前年を上回った。建築着工（民間・非居住用）は、棟数、床面積、工事費予定額とも前年を下回った。新設住宅着工戸数は、持家が前年を上回ったものの、合計では5ヵ月連続で前年を下回った。倒産状況は、負債金額10百万円以上の倒産件数は前年と同件数、負債総額は前年を上回った。雇用情勢は、新規求人倍率、有効求人倍率（季節調整値）とも、前月比改善したものの、依然として厳しい状況が続いている。

### 〔消費動向・一部に明るい動き〕

大型小売店販売額（全店舗ベース）は、雇用・所得環境が一段と厳しさを増す中で、衣料品を始め飲食料品や身の回り品など軒並み低調に推移し、全店舗ベースで198億89百万円（前年同月比 $\Delta$ 2.2%）と8ヵ月連続で前年を下回った。乗用車新車販売は、軽乗用車が依然低迷しているものの、普通車や小型車が補助金や減税の効果から前年を上回り、合計では6ヵ月連続で前年を上回った。消費者物価指数は、前月比0.1%下降し、4ヵ月連続で前月を下回った。また前年同月比では1.5%下降し、12ヵ月連続で前年を下回った。個別企業の販売動向をみると、家電量販店は、エコポイント効果から薄型テレビが好調を持続しており、パソコン、デジカメ、携帯電話、洗濯機などが振るわなかったものの、合計では前年を上回り推移した。ホームセンターは、日用品、園芸植物、家庭用品、木材塗料、ペット関連、除雪用品、灯油などが好調、前年を上回り推移した。旅行取扱額は、国内・海外の個人ならびに団体とも、景気低迷や所得環境の悪化などから前年を下回り推移した。

### 〔投資動向・減少基調〕

1月の公共工事前払保証取扱は、件数は11ヵ月連続で、請負金額は2ヵ月ぶりに前年を上回った。12月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数、床面積、工事費予定額ともそれぞれ前年を下回る動きが続いている。1月の新設住宅着工戸数は、持家が前年を上回ったものの、合計では5ヵ月連続で前年を下回った。

### 〔生産活動・持ち直しの動き〕

12月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は、生産の持ち直し基調が続く中、91.3（前月比+1.8%）となり、4ヵ月連続で前月を上回った。また原指数では91.6（前年同月比+7.9%）となり、17ヵ月ぶりに前年を上回った。1月の大口電力販売量は、2ヵ月連続で前年を上回った。特に、非鉄金属や輸送機械では、前年同月比2ケタ増となるなど復調振りが窺える。

### 〔企業倒産・横ばい〕

負債金額10百万円以上の企業倒産状況は、倒産件数が前年と同件数、負債総額は5ヵ月ぶりに前年を上回った。

### 〔金融動向・貸出金鈍化〕

1月末の預金残高は前年同月比+2.4%と35ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は同 $\Delta$ 0.9%と3ヵ月連続で前年を下回った。

### 〔雇用動向・悪化〕

有効求人倍率（原数値）は、27ヵ月連続で前年を下回った。季節調整値でみた新規求人倍率は3ヵ月連続、有効求人倍率は23ヵ月ぶりにそれぞれ前月を上回ったが、依然として厳しい状況が続いている。

県内経済動向の概要

	項目	前年同月比			前月比		
		11月	12月	1月	11月	12月	1月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	↗	↗	↘	↔	↗	↘
	乗用車新車登録台数	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	消費者物価指数（総合）	↗	↗	↗	↗	↗	↗
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	↗	↗	↔	↗	↗	↗
	建設着工棟数（民間・非居住用）	↗	↗	-	↗	↗	-
	新設住宅着工戸数	↗	↗	↗	↗	↗	↗
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	↗	↗	-	↗	↗	-
	大口電力販売量	↗	↗	↗	↗	↗	↗
企業倒産	企業倒産件数注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	企業倒産金額注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
金融動向	預金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	貸出金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注3	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	新規求人倍率（パート含む）注3	↗	↗	↗	↗	↗	↗

良化 ↗      良化傾向にあるがほぼ横這い ↔      悪化傾向にあるがほぼ横這い ⇔      悪化 ↘

注1：前月比は季節調整値、前年同月比は原指数。注2：負債総額10百万円以上。注3：前月比は季節調整値。前年同月比は原指数。

## 2. 県内経済動向

### — 消費動向 —

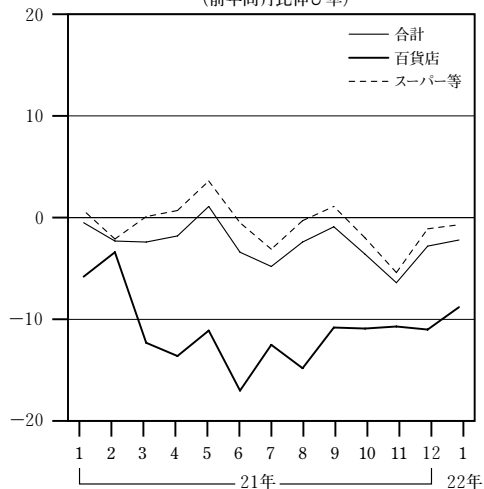
**大型小売店** 1月の県内大型小売店の販売額は、雇用・所得環境が一段と厳しさを増す中で、冬物衣料が振るわなかったことに加え、節約志向から飲食料品や身の回り品なども低調に推移し、全店舗ベースで198億89百万円（前年同月比△2.2%）と8ヵ月連続で前年を下回った。一方、既存店ベースでも同6.3%減と14ヵ月連続で前年を下回った。（注：既存店とは調査月において当月と前年同月とともに存在した事業所の数値。）

業態別に内訳をみると百貨店は、衣料品が主力の婦人服をはじめ全般的に振るわなかったほか、飲食料品、身の回り品も前年を大きく割り込み、全店舗ベースで33億47百万円（同△8.8%）と、既存店ベース（同△5.4%）とともに29ヵ月連続で前年を下回った。

スーパーは、節約志向が強まる中、主力の飲食料品の売上は4ヵ月ぶりに前年を上回ったものの、衣料品や身の回り品、家庭用品が振るわず、全店舗ベースで165億42百万円（同△0.7%）と4ヵ月連続で前年を下回った。一方、既存店ベースでも同6.5%減と、8ヵ月連続で前年を下回った。

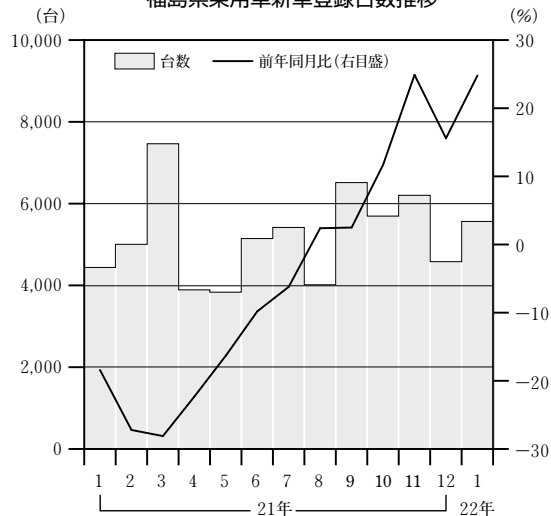
**乗用車販売** 1月の乗用車新車登録台数（軽乗用車含）は、合計で5,610台（前年同月比+24.8%）となり、減税や補助金効果により6ヵ月連続で前年を上回った。車種別でみると、普通車※は

福島県大型小売店販売額（全店舗）  
（前年同月比伸び率）



（資料：経済産業省）

福島県乗用車新車登録台数推移



（資料：福島県自動車販売店協会）

624台（同+58.8%）と3ヵ月連続で前年を上回った。小型車\*は3,126台（同+47.0%）と6ヵ月連続で前年を上回った。軽乗用車は1,860台（同△5.8%）と14ヵ月連続で前年を下回った。

※今月号より、乗用車販売台数の区分を普通車（従来大型車）、小型車（同中小型車）、軽乗用車（変更なし）とします。「乗用車販売台数」の定義については、本号巻末の「経済データのいみ」第12回を参照ください。

1月の乗用車中古車販売台数（軽自動車は名義変更を含む）は、合計で7,529台（前年同月比△10.7%）と2ヵ月連続で前年を下回った。車種別にみると普通車は2,008台（同△13.2%）と、12ヵ月連続で前年を下回った。一方、小型車は2,859台（同△12.1%）、軽乗用車は2,662台（同△7.0%）で、いずれも2ヵ月連続で前年を下回った。

**消費者物価指数** 1月の消費者物価指数は、総合指数（福島市、平成17年=100）でみると、99.9（前月比△0.1%）となり、4ヵ月連続で前月を下回った。前年同月比では1.5%下がり、12ヵ月連続で下降した。

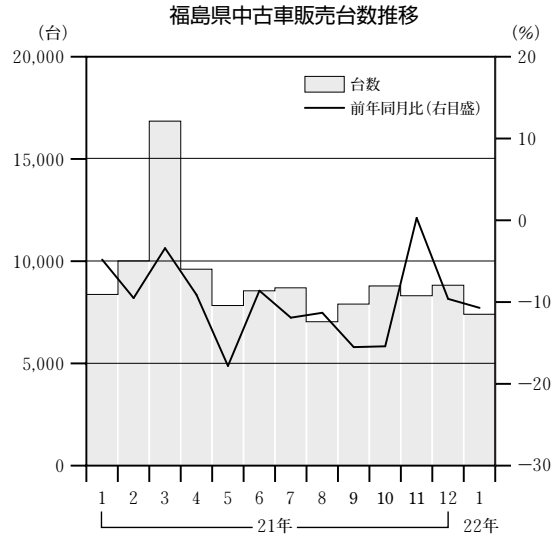
費目別の指数動向をみると、「食料」が104.3（前月比+2.1%）、「水道・光熱」が105.1（同+0.4%）、「家具・家事用品」が91.1（同+0.3%）、「諸雑費」が101.2（同+0.3）と4費目で前月比上昇した。一方、「被服及び履物」が97.7（同△7.9%）、「教養娯楽」が93.6（同△1.3%）、「交通・通信」が97.6（同△0.8%）、「住居」が98.5（同△0.1%）と4費目で前月比下降した。また、「教育」は103.7、「保健医療」は97.0と前月と同じであった。

**家電量販店** 1月の売上状況は、エコポイント効果から薄型テレビが前年を大幅に上回るなど好調が続いており、パソコン、デジカメ、携帯電話などのデジタル家電や冷蔵庫、洗濯機など白物家電が振るわなかったものの、合計では前年を上回り推移した。

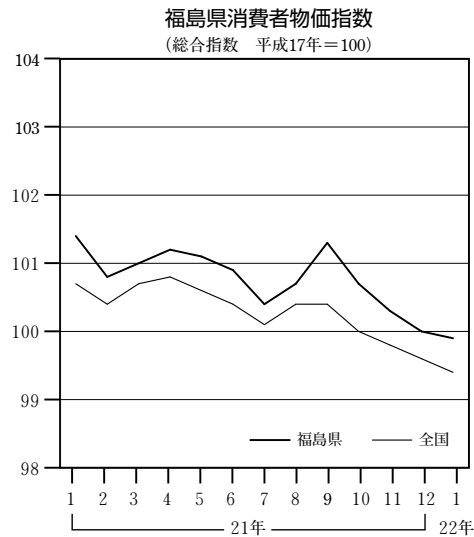
**ホームセンター** 1月の売上は、日用品、園芸植物、家庭用品、木材塗料、ペット関連商品、除雪用品、灯油などが好調に推移し、全体では前年を上回る水準で推移した。

**旅行** 1月の旅行取扱額実績は、景気低迷や所得環境の悪化などから、国内・海外の個人並びに団体とも、前年を下回り推移した。

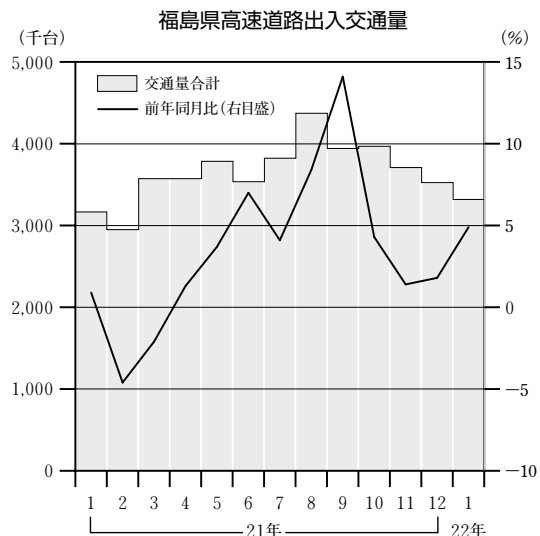
**高速道路** 1月の県内自動車道出入口数は、「ETC



(注) 軽自動車は名義変更台数含む  
資料：(社)日本自動車販売協会連合会 福島支部  
(社)全国軽自動車販売協会連合会



(資料：総務省統計局)



(資料：東日本高速道路(株)東北支社)

割引制度」の効果などから、3,345,933台（前年同月比+4.9%）と10ヵ月連続で前年を上回った。路線別にみると、東北自動車道（白河IC～国見IC）は1,906,001台（同+2.2%）と2ヵ月連続で増加、磐越自動車道（いわき三和IC～郡山東IC）は217,146台（同△5.2%）と4ヵ月連続で前年を下回った。磐越自動車道（磐梯熱海IC～西会津IC）は504,088台（同+7.5%）と2ヵ月ぶりに前年を上回った。常磐自動車道（いわき勿来IC～常磐富岡IC）は718,698台（同+14.5%）と10ヵ月連続で前年を上回った。

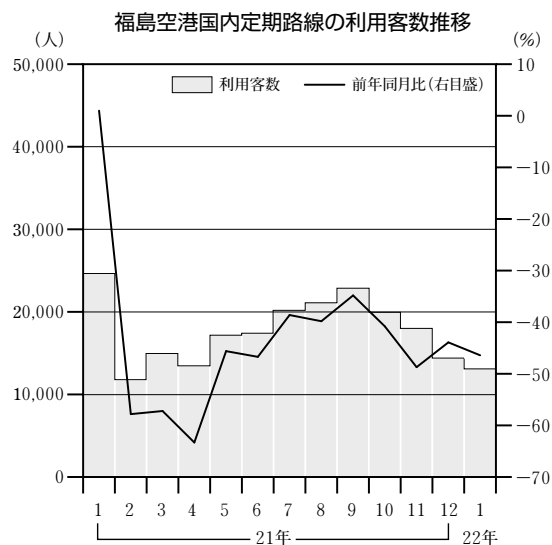
**福島空港** 1月の福島空港国内定期路線の利用状況は、平成21年1月の日本航空の撤退に伴う大阪（関空発着）・沖縄両路線の廃便により、13,293人（前年同月比△46.4%）と前年を大きく下回った。路線別にみると、札幌便は5,767人（同△7.5%）と2ヵ月連続で前年を下回った。大阪便は7,526人（同△29.6%）と25ヵ月連続で前年を下回った。一方、国際定期路線の利用状況は、3,487人（同+37.5%）と3ヵ月連続で前年を上回った。路線別にみるとソウル便は2,396人（同+41.3%）、上海便は1,091人（同+29.9%）となっている。

## —— 投資動向 ——

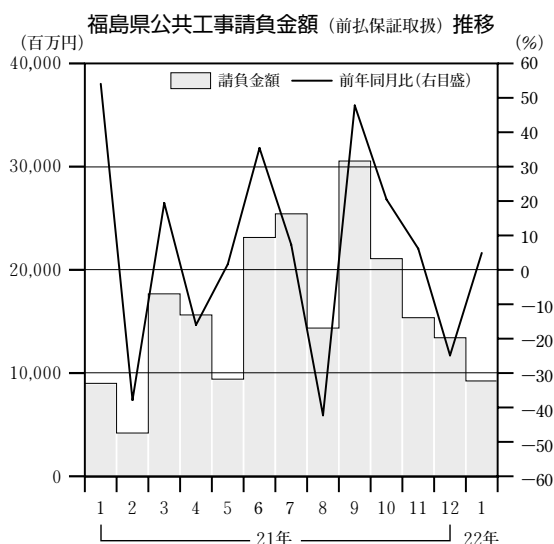
**公共工事** 1月の公共工事前払保証取扱は、件数が476件（前年同月比+19.0%）と11ヵ月連続で前年を上回った。請負金額は93億17百万円（同+3.8%）、保証金額は40億15百万円（同+11.3%）となり、それぞれ2ヵ月ぶりに前年を上回った。

なお、年度累計（2009年4月～2010年1月）では、件数が前年同期比827件増加し、6,329件（前年同期比+15.0%）、請負金額が同33億27百万円増加し、1,779億88百万円（同+1.9%）、保証金額が14億43百万円増加し、682億64百万円（同+2.2%）となっている。

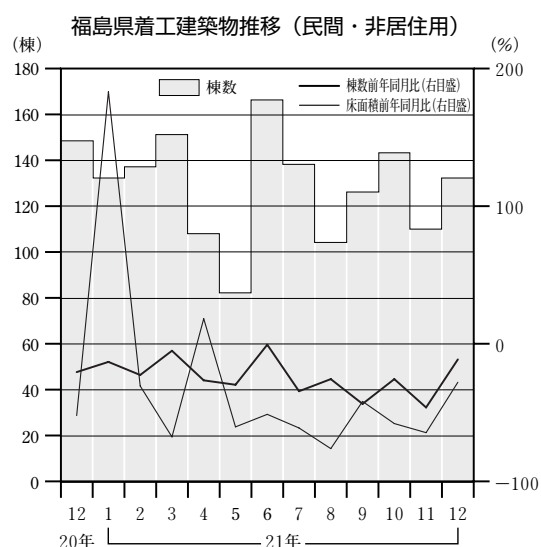
1月の主な発注者別の請負金額は、国が前年比11億94百万円増加し、16億92百万円（同+239.8%）となった。独立行政法人等（東日本高速道路㈱など）は同5億44百万円増加し、737億円（同+283.9%）となった。県は同14億34百万円増加し、34億46百万円（同+71.4%）となった。市町村は同23億65百万円減少し、32億98百万円（同△41.8%）



（資料：福島県商工労働部空港交流課）



（資料：東日本建設業保証㈱）



（資料：国土交通省）



となった。

**設備投資** 12月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数が133棟（前年同月比△10.7%）と6ヵ月連続で前年を下回った。床面積は42,558㎡（同△27.3%）、工事費予定額は53億56百万円（同△30.5%）となり、それぞれ8ヵ月連続で前年を下回った。

1月の建築物確認件数（計画変更を除く）は、505件（前年同月比△3.1%）と2ヵ月連続で前年を下回った。建築物別にみると、1～3号建物（一定規模以上の建築物が対象）は116件（同△2.5%）と16ヵ月連続で前年を下回った。4号建物（小規模な木造・非木造住宅などが対象）は389件（同△3.2%）と2ヵ月連続で前年を下回った。「構造計算適合性判定合格件数」は9件と前月比5件減少し、2ヵ月ぶりに前月を下回った。

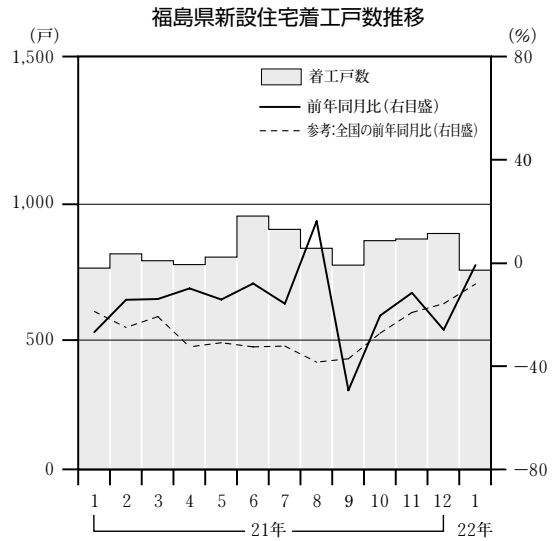
建築物着工の先行指標である1月の建築物申請件数は、515件（同△1.7%）と2ヵ月連続で前年を下回った。建築物別にみると、1～3号建物は117件（同+9.3%）と8ヵ月ぶりに前年を上回った。4号建物は398件（同△4.6%）と2ヵ月連続で前年を下回った。「構造計算適合性判定申請件数」は4件と、前月比7件減少し、2ヵ月ぶりに前月を下回った。

**住宅建設** 1月の県内新設住宅着工戸数は、727戸（前年同月比△0.8%）と5ヵ月連続で前年を下回った。主な利用関係別にみると、「持家」は341戸（同+17.2%）となり、5ヵ月ぶりに前年を上回った。「貸家」は347戸（同△12.8%）となり、5ヵ月連続で前年を下回った。「分譲住宅」は39戸（同△9.3%）と2ヵ月連続で前年を下回った。分譲住宅のうちマンションの着工戸数は、10ヵ月連続でゼロとなっている。

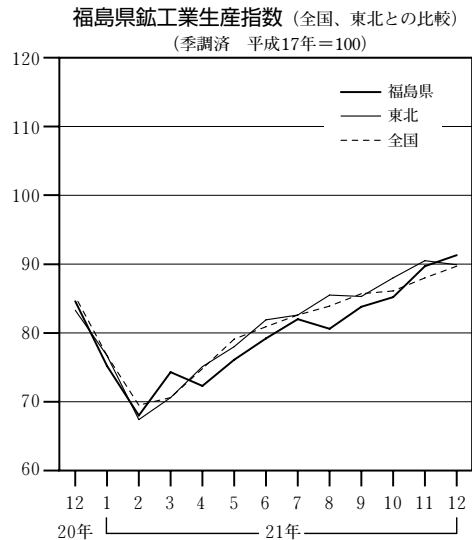
## 生産活動

**鉱工業生産指数** 12月の鉱工業生産指数は、季節調整済指数でみると91.3（前月比+1.8%）となり、4ヵ月連続で前月を上回った。原指数は91.6（前年同月比+7.9%）となり、17ヵ月ぶりに前年を上回った。

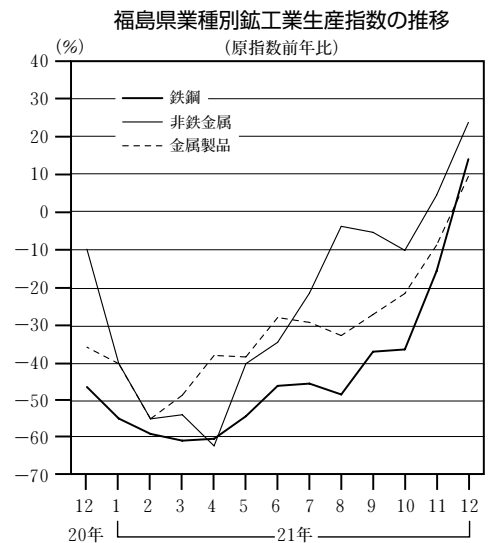
上昇および低下した主な業種別（季節調整済指数）では、電気機械工業で116.8（前月比+26.5%）、非鉄金属工業で105.1（同+14.6%）、情報通信機械工業で126.5（同+9.4%）など11業種で



(資料：国土交通省)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)

上昇した。一方、精密機械工業で118.4（同△8.8%）、輸送機械工業で75.9（同△6.9%）、パルプ・紙・紙加工品工業で83.0（同△3.2%）など9業種で下降した。

**化学** 1月の食品包装フィルム用合成樹脂やフッ素樹脂、金属代替プラスチック、医薬品の生産は好調だったものの、炭素繊維、工業製品（化成ソーダ等）などは前年を下回り推移した。酸化チタン（白色顔料、自動車用塗料向け）の生産やバリウム化合物（電子部品原料）の生産は堅調、前年並みの水準で推移した。

**鉄鋼・金属** 1月の伸銅品の生産は、半導体向け電子材および自動車向け端子材とも、前年を大幅に上回り推移した。建機用鋳造品の生産は、新興国向けは持ち直して来たものの、国内・欧米向けが低調、前年を大幅に下回った。車両用鋳造品は、新幹線、JR 在来線の更新需要および海外需要に支えられ、堅調に推移した。船舶用バルブ部品は前年を上回ったが、陸上プラント用バルブ部品は前年を下回る水準で推移した。

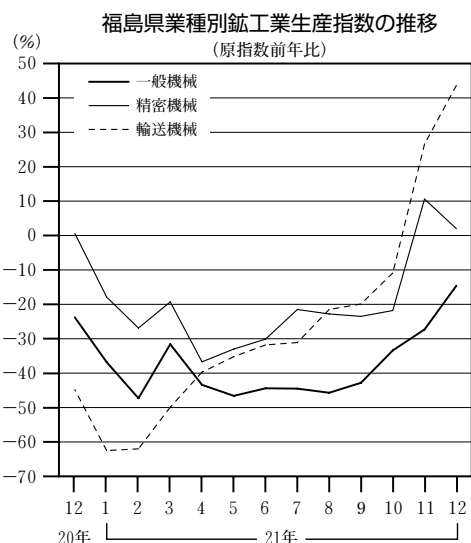
**輸送用機械** 1月の自動車用鋳造品の生産は、海外向けが復調し、前年を上回り推移した。自動車用オイルシールの生産は、ハイブリッドカー向けが好調に推移するなど、持ち直しの動きが続いている。カーナビ・カーオーディオの生産は、前年を上回る水準で推移するなど、持ち直しの動きが続いている。

**電気機械** 1月の変圧器の生産は好調に推移し、配電盤、電熱炉、自動車モーターの生産が振るわなかったものの、全体では前年並みの水準で推移した。

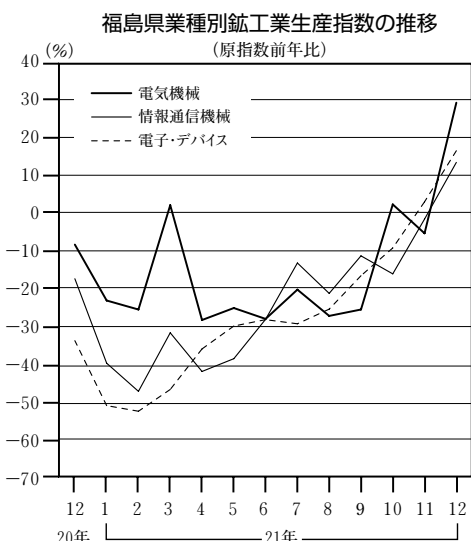
**情報通信機械** 1月の携帯電話中継局用マイクロ波通信機器の生産は、主力のインド向けが依然低調、前年を下回る水準で推移した。衛星通信機器関連、FA 関連機器の生産は、前年並みの水準で推移した。

**電子部品・デバイス** 1月のLSI（大規模集積回路）の生産は、車載品、産業機器、パソコン・OA 向けが好調、AV・ゲーム機・家電、携帯電話、通信向けなどが低調に推移したものの、全体では前年を上回る水準となった。

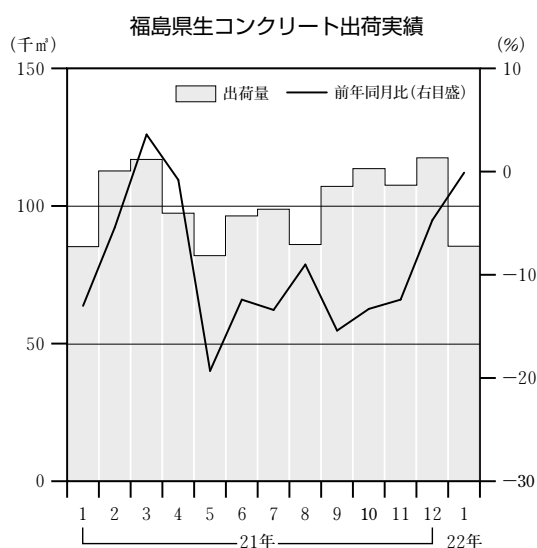
**精密機械** 1月の医療用内視鏡の生産は、ほぼ前年並みの水準で推移した。デジタル一眼レフカメラ用レンズは、回復基調にあるが、前年を



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)

やや下回る水準で推移した。

**紙・紙加工品** 1月の段ボールの生産は、IT製品向けが低迷、前年をやや下回る水準で推移した。また、ノーカーボン紙の生産は前年を上回ったが、感熱紙の生産は、前年を下回る水準で推移した。

**窯業・土石** 1月の生コンクリート出荷量は、全体で85,778m<sup>3</sup>（前年同月比△0.1%）と10ヵ月連続で前年を下回った。増加地区についてみると、官公需では、県中地区で公立病院建設、公立学校改装工事等、白河地区で公立学校新築工事、砂防ダム工事等、会津地区でダム取水トンネル建設工事等により、民需では相双地区で高速道路建設工事、原発改修工事等により増加した。

**清酒** 1月の清酒移出数量は、887kl（前年同月比△8.0%）と16ヵ月連続で前年を下回った。タイプ別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が377kl（同+5.6%）と10ヵ月ぶりに前年を上回った。一般酒（特定名称酒以外の酒）は、510kl（同△15.9%）と16ヵ月連続で前年を下回った。

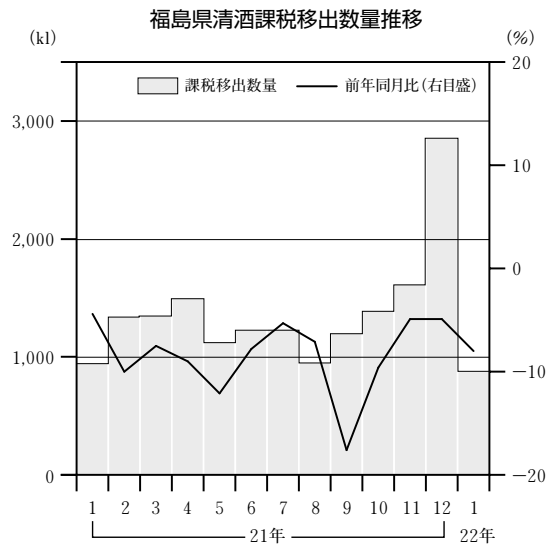
**合成繊維物** 1月のナイロンの生産はダウンジャケット（表地）向けを中心に、前年を下回る水準で推移した。ポリエステルも、紳士服、婦人服の裏地向けなど前年を下回り推移した。

**ニット** 1月のニットの生産は、春物生産が中心であるが、国内需要の低迷から、受注・生産は低調な水準で推移した。

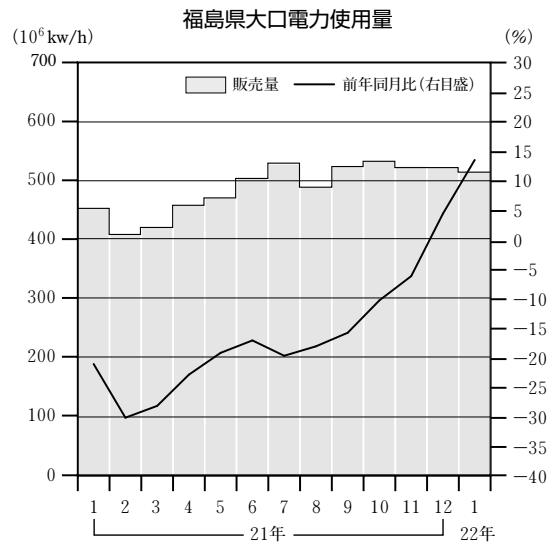
**大口電力** 1月の大口電力販売量は、516百万kw/h（前年同月比+13.6%）と2ヵ月連続で前年を上回った。大口主要販売先を業種別にみると、「非鉄金属」で123百万kw/h（同+30.2%）、「電気機械」で99百万kw/h（前年同月比+5.0%）、「化学」で55百万kw/h（同+14.0%）、「輸送用機械」で51百万kw/h（同+43.6%）、「一般機械」で24百万kw/h（同+2.3%）、「紙・パルプ」で16百万kw/h（同△10.8%）となっており、特に、非鉄金属や輸送用機械で前年を大きく上回った。

## —— 企業倒産 ——

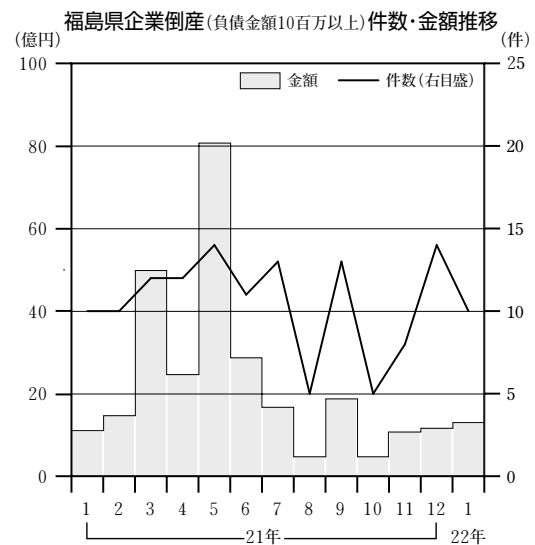
**企業倒産** 1月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、倒産件数が10件（前年同月比±0.0%）となり、前年と同じであった。負債総額は12億69



(資料：福島県酒造組合)



(資料：東北電力福島支店)



(資料：帝国データバンク福島支店)

百万円（同+14.3%）となり、5ヵ月ぶりに前年を上回った。

倒産主因別内訳は、10件中8件が受注・販売不振、業界不振など不況型倒産であった。業種別内訳は、建設業が6件、卸売業が2件、製造業が1件、サービス業が1件となった。また、地区別内訳は、県北（本宮市以北）が3件、県南（郡山市以南）が6件、会津が1件となり、浜通りはゼロであった。

## 金融動向

**資金需要** 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の1月末の預金残高は、6兆4,464億円（前年同月比+2.4%）と35ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、3兆8,428億円（同△0.9%）と3ヵ月連続で前年を下回った。

**保証協会** 1月の保証承諾は、件数が995件（前年同月比△41.6%）、保証金額が101億63百万円（同△54.6%）となった。因みに昨年1月は、急激な景気悪化に対応するため、緊急保証制度の取り扱いが大幅に増加したが、本年1月の落ち込みはその反動によるものである。なお、1月末日現在の保証債務残高は、件数が43,851件（同+4.5%）、金額が3,559億66百万円（同+12.8%）となった。また、1月中の代位弁済は、件数が87件、金額が6億43百万円となった。

## 雇用動向

**雇用動向** 1月の新規求人数（原数値）は、7,661人（前年同月比△19.3%）と27ヵ月連続で前年を下回った。新規求職申込件数（原数値）は、12,834件（同△18.9%）と2ヵ月連続で前年を下回った。

新規求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.72倍（前月比+0.01<sub>割</sub>）と3ヵ月連続で前月を上回った。原数値は0.60倍（前年同月比0.00<sub>割</sub>）となった。有効求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.35倍（前月比+0.02<sub>割</sub>）となり、23ヵ月ぶりに前月を上回った。原数値は0.36倍（前年同月比△0.12<sub>割</sub>）と27ヵ月連続で前年を下回った。

